

みつぎ便り

141号
6月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成30年6

ハクチョウゲ（白丁花）

奥深く砂しく門や

白丁花

無徳

東南入り口の花壇に樹高八十センチ程で小さな葉が多くついた低木が植えられています。枝の先に白くて花径一センチほどの花が多数見られます。ハクチョウゲです。ハクチョウゲは、アカネ科ハクチョウゲ属に分類される東南アジアの亜熱帯から熱帯に自生する常緑低木、半落葉低木です。



高さ一拵ぐらいです。通常なら六、七月頃に葉腋（茎の部分で、葉のつけ根のすぐ上の部分）から伸びる短枝の先端に可憐な花を多数咲かせます。今年春に高温の日が多かったため花期が早まっているようです。花はラッパ型の星型花で、花名の「丁」は、花の形のこと、「ラッパ型」を表します。（薫）

チュウレンジバチ

今回は、あまり馴染みのない昆虫、チュウレンジバチを紹介いたします。成虫は全長八ミリの小さなハバチ（葉蜂）の仲間、頭と胸、足、はねの部分は黒色をしており、腹部はオレンジ色です。

ハチと言う名がついていますが、刺さないハチで毒針もないのでご安心下さい。

しかし、チュウレンジバチの幼虫はバラ科の葉を食べる害虫として、また、成虫もメスは、バラの若い枝に産卵するため、バラの園芸家、愛好家の皆さんには大変嫌われています。



チュウレンジバチは、年三、四回発生し、五月、十月位まで見かけることが出来ます。体長二センチ程度の幼虫は、一度にたくさん発生して、葉裏に群棲し、葉縁から葉を食べつくすので、バラを育てている方にとって、駆除は大変苦労しているようです。

見次公園では、遊具のある広場の横の斜面で良く見かけるので、観察してみてください。ただし、非常に小さなハバチで、動きも結構早いのでその辺りの覚悟が必要です。（圭）